

令和5年度第2回 県西地区保健医療福祉推進会議 病床機能分化・連携ワーキンググループ開催結果概要

- 1 日時 令和5年12月12日(火)19:00~20:20
- 2 方法 WEB 開催（協議）
- 3 参加者 医療機関 21名（16医療機関）
医師会、地域医療介護連携関係者、行政 10名
オブザーバー（市町） 13名

4 議題

(1) 公的医療機関等 2025 プラン及び 2025 年に向けた対応方針について

事務局から資料1について説明およびプラン更新した病院から補足説明し、質疑、意見交換を行った。

(2) 地域特性を生かした連携深化について

事務局から資料2について説明し、地域特性を生かした連携深化の方策について意見交換を行った。

(3) 医療介護総合確保基金について

事務局から、基金の活用状況や補助制度の説明および基金を活用した医療介護連携システムの構築事例や構築する場合の流れなどについて資料3により説明した。

また、他地域のシステムの利用経験のある構成員による感想等を交え、質疑、意見交換を行った。

5 主な意見等

○ 協議

(1) 公的医療機関等 2025 プラン及び 2025 年に向けた対応方針について

・各病院とも、迷いや悩みを抱え状況判断が難しいところだと思う。各病院の状況や事情もあるので今後も協議を続けていくことになる。

・最終的に急性期に戻すことを地域として受け入れるのであれば構わないが、他の地域の状況なども考えると、保健医療福祉推進会議であらためて報告して決める必要がある。（事務局）

(2) 地域特性を生かした連携深化について

・（医師不足による産科、小児科の集約化はやむを得ないが、）これ以上の集約化は足柄の地域住民に悪影響を及ぼすため、足柄上地域の医療提供体制を現状維持する

よう求める。

- ・ 公立2病院だけでなく、各医療機関の特徴を踏まえて地域医療を考えるべき。
- ・ 疾患が多い患者に関しては、疾患別の地域医療の仕組みの絵も必要だと思う。

(3) 医療介護総合確保基金について

○病床整備等に係る補助について

なし

○ICTの構築事例について

- ・ よく連携している施設等と一緒に参加し、概ね転院調整に利用している。クリニックや介護分野との連携にはまだ使えていない。
- ・ 急性期病院の利用が増えると、後方に位置する病院の受け入れや情報共有がスムーズになると思う。
- ・ 転院の速やかな促進に非常に役立っている。
- ・ ICTは地域の活性化のために活用していくべきツールである。画像を含めて医療の情報を紐づけてクラウド管理ができることや、ランニングコストが嵩まないことなどが求められる。基金の申請期限もあるので早急に地域で検討する必要がある。

→今後、長い目で見てどういうシステムが必要なのか、転院調整だけで良いのか、カルテをつなげて医療と介護で情報連携していく必要があるのか、導入前に地域全体でしっかり議論していただくことが大事だと感じている。(事務局)